

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 24 日現在

機関番号：33919

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2012

課題番号：21310031

研究課題名（和文）東アジア環境共同体に向けた環境法・行政・財政に関する国際比較研究
 研究課題名（英文）International Comparative Analysis on Environmental Law, Environmental Administration and Environmental Fiscal System toward East Asia Environmental Community

研究代表者

李秀ちよる（LEE SOOCHEOL）

名城大学・経済学部・教授

研究者番号：10329683

研究成果の概要（和文）：

環境法・規制と財政改革は、短期的な視野では実現が難しい課題であり、国民に財政のグリーン化の長期ビジョンをわかりやすく提示・説得し、国民の同意を得ることが先決条件ともいえる。そのため、短期的経済情勢に左右されない、確たる信念と強いリーダーシップの下で、国民に化石エネルギー依存経済の限界、環境汚染を適正な方法で内部化する必要性、原子力エネルギー利用のリスクに対する正しい教育や情報提供を地道に行ってゆく必要がある。

研究成果の概要（英文）：

Green Fiscal Reform is a challenge that is difficult to achieve based on a short-term perspective. Necessary first steps are to present to the public a long-term vision for greening fiscal measures in an easy-to-understand manner and to gain public support. In East Asian countries, the greatest obstacle to green fiscal reform, including environmental tax reform, is low awareness about the harm that the use of fossil energy causes to the environment, also to the health of the population and about the risks associated with nuclear energy.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
2010年度	3,300,000	990,000	4,290,000
2011年度	3,300,000	990,000	4,290,000
2012年度	3,100,000	930,000	4,030,000
年度			
総計	14,100,000	4,230,000	18,330,000

研究分野：環境影響評価

科研費の分科・細目：環境政策

キーワード：持続可能な発展、東アジア環境共同体、環境法、環境財政、環境行政

1. 研究開始当初の背景

急速な工業化・都市化過程を進んできた東アジア地域では、経済の発展段階と環境保全

に関する社会的認識の多様性を反映し、大気・水質保全、循環経済、地球環境分野などにそれぞれ独自の環境法規制・行政・財政シ

システムを構築、展開してきた。

たとえば産業公害では、国によってはこれらのシステムがうまく噛み合い克服につながった例もあるが（日本など）、法律上のシステムと実際に運用されているシステムとのギャップが大きく、深刻な公害被害をいまだ克服しえていない地域もある（中国など）。また、地球温暖化問題に関してはいずれの国においてもこれらのシステムの方向性が定まっているとはいえない状況である。

2. 研究の目的

本研究は、日本・中国・韓国・台湾を中心とする東アジア地域における環境法・規制および財政の運用実績・成果・課題に関する国際比較分析を通して、東アジア環境共同体と呼ぶべき緊密な環境協力システムを構築し、同地域を持続可能な発展へ導いて行くための方向性を示すことを目的とする。

3. 研究の方法

東アジア地域のエネルギーと環境に係る法・規制と財政システムの展開過程および成果と課題を国際比較分析し、各国の経済社会発展段階における望ましい制度改革の方向性を明らかにしたことは、本研究の大きな特徴であるといえる。

本研究は、東アジアの環境問題と関連政策に関心を持つ研究グループ（東アジア環境政策研究会：国内研究者9人、そして国外研究者8人）が、2009年度から2012年度までの4年間、数多くの研究会と国際ワークショップの中での議論、そして海外調査を経て得られた知見に基づいて作成したものである。

4. 研究成果

本研究による東アジアでの環境法・規制・財政の比較分析は、環境規制と財政の改革に関する国民意識や制度基盤の脆弱な世界の

多くの発展途上国に良い示唆を与えるものである。本研究の意義は、急激な制度改革を進めている東アジアの研究者たちが、相互の理解と共通の認識に基づいた議論を行うことにより、それぞれの制度改革の実現のために必要な示唆を得ることにある。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計28件）

1. LEE Soo-cheol, Hector Pollitt, Kazuhiro Ueta, “A Model- Based Econometric Assessment of Japanese Carbon Tax Reform”, *Scientific World Journal*, volume 2012 (forthcoming). (査読有)

2. LEE Soo-cheol, Kazuhiro Ueta, “Public policy issues on the disposal of high-level radioactive waste in Japan”, *Critical Issues in Environmental Taxation*, Volume XII "green Taxation and Environmental Sustainability" (edited by Larry Kreiser, et al.), 197-211, Edward Elgar, 2012. (査読有)

3. 昔宣希, 宮澤幾歩, 李秀ちよる 『韓国の環境ビジネスの国際展開に係る官民連携の実態調査』, IGES 政策 REPORT, 2012年3月. (査読無)

4. LEE Tae-Yeoun, “Determinants of Willingness to Pay for Emissions Reduction: A Comparative Study of Korea and Japan”, *Critical Issues in Environmental Taxation*, Volume XI "Carbon Pricing, Growth and the Environment" (edited by Larry Kreiser et al.), 201-219, Edward Elgar, 2012. (査読有)

5. Park Seung-Joon, Masato Yamazaki, Shiro Takeda, “Environmental Tax Reform: Major findings and policy implications from a multi-regional economic simulation analysis”, [Background Policy Paper] *Low Carbon Green Growth Roadmap for Asia and the Pacific*, UNESCAP, 2012. (査読有)

6. Sungin Na, Mari Nishiki, and Kazuhiro Ueta, “Climate Change and Sustainable Development: A Methodological Framework for Evaluation”, *CDM and Sustainable Development in China* edited by Kazuhiro Ueta, 23-48, 2012. (査読無)

7. 陳禮俊・余貴忠「中国貴州省少数民族の森林保護、林業経営と紛争処理-森林資源管

- 理におけるコミュニティー・ガバナンスの役割」, マイノリティ研究, 関西大学マイノリティ研究センター, 1-18, 2012. (査読無)
8. 櫻井次郎「中国における環境法の執行と司法の役割」北川秀樹編著『中国の環境法政策とガバナンス——執行の現状と課題——』晃洋書房, 79-103, 2012年 (査読無)
 9. 李秀澈「低炭素地域社会に向けた韓国の中央政府と地方自治体の地球温暖化対策-釜山市の取り組みを題材として」『韓国経済のダイナミズムと課題-日韓比較の視座』名古屋学院大学総合研究所 DP No.90, 5-26, 2011. (査読無)
 10. 李秀澈「日韓における排出権取引制度導入に向けた政策過程と制度設計」『エネルギーフォーカス』8(4), 韓国エネルギー経済研究所, 74-90, 2011. (査読無)
 11. Bouwe Dijkstra, Edward Manderson and Tae-Yeoun LEE, "Extending the Sectoral Coverage of an International Emission Trading Scheme", *Environmental and Resource Economics* 50(2), 243-266, 2011. (査読有)
 12. 朴勝俊「気候変動政策の国際協調について」『経済政策ジャーナル』8巻2号, 112-128, 2011. (査読有)
 13. Park Seung-Joon, Price Signal or Tax Signal? -- An International Panel Data Analysis on Gasoline Demand Reaction --, Volume VIII Water Management and Climate Change, Edward Elgar. 2011. (査読有)
 14. 吉田央「「国策」としての原子力」『経済科学通信』, 第126巻, 47-54, 2011. (査読有)
 15. 李秀澈「韓国の環境政策の展開と環境行財政改革—日本との比較を交えて—」『アジア社会経済論』創成社, 1-34, 2010. (査読無)
 16. LEE Soo-cheol, Sungin NA, "E-Waste Recycling Systems and Sound Circulative Economies in East Asia: A Comparative Analysis of Systems in Japan, South Korea, China and Taiwan", *Journal of Sustainability* 2010(2), 1632-1644. (査読有)
 17. 李態妍・朴勝俊「韓国の排出賦課金および環境改善負担金に関する政策効果分析」『東アジアの環境賦課金制度』李秀澈編著, 昭和堂, 96-116, 2010. (査読無)
 18. 朴勝俊・李秀ちよる「東アジアの再生可能エネルギー政策—日中韓台の普及促進措置の現状と課題—」『東アジアの環境賦課金制度』李秀澈編著, 昭和堂, 302-332, 2010. (査読無)
 19. 陳禮俊「台湾における汚染賦課金の政策分析-大気汚染賦課金および水質汚染賦課金を中心に」, 『東アジアの環境賦課金制度』李秀澈編著, 昭和堂, 191-211, 2010. (査読無)
 20. 知足章宏「中国版グリーン・ニューディールの考察 - 環境関連投資, 省エネおよび再生可能エネルギー支援策の動向」『立命館社会システム研究』第21号, 立命館大学社会システム研究所, 143-162, 2010. (査読有)
 21. 宋国君・李佩潔・知足章宏・朴勝俊「中国の再生可能エネルギー政策」『東アジアの環境賦課金制度』李秀澈編著, 昭和堂, 349-371, 2010. (査読無)
 22. 李秀澈「環境補助金とポリシー・ミックスの政治経済学—環境政策選択と環境補助金」『環境政策のポリシー・ミックス』諸富徹編著, ミネルヴァ書房, 68-84, 2009. (査読無)
 23. 李秀澈「韓国のグリーンニューディールと低炭素緑色成長戦略」『環境経営学会誌』第9巻第1号, 1-17, 2009. (査読無)
 24. 金炳国, 李秀澈「日韓の環境政策と環境行財政—両国の新しい環境行財政ガバナンス構築のための課題」『名城論叢』10(1), 85-102, 2009. (査読無)
 25. 植田和弘, 李秀澈, 陳禮俊, 金紅実「東アジアの環境政策と環境財政—比較環境財政へ向けて」『東アジアの経済発展と環境政策』ミネルヴァ書房, 148-175, 2009. (査読無)

26. 李態妍 「EU 排出枠取引制度 (EU ETS) のグローバル化に向けての課題」, 『経済学論集』龍谷大学経済学会, 48(3・4), 137-174, 2009. (査読無)
27. 櫻井次郎 「持続可能な開発と環境運動」
大坪滋・木村宏恒・伊東早苗編『国際開発学入門』勁草書房, 430-437, 2009. (査読無)
28. Chiashi Akihiro and Oshima Kenichi, "Improved Tap-Water and Sanitary Facilities Needed", Japan Environmental Council (ed.), The State of the Environment in Asia 2006/2007, United Nations University Press, 246-251, 2009. (査読無)

[学会発表] (計 7 件)

1. Soocheol Lee, An Assessment of Japanese Carbon Tax Reform Using the E3MG Econometric Model, The 3rd Congress of The East Asian Association of Environmental and Resource Economics, 21/02/2013 Renmin University of China
2. Soocheol Lee, Energy Tax and Fiscal Reform toward Low Carbon Economy: the Case of Japan, 30/06/2011, European Association of Environmental and Resource Economists 18th Annual Conference, Rome.
3. 李秀澈, 東アジアの環境賦課金制度: 制度進化の条件と課題, 環境経済・政策学会2010年度大会, 平成22年9月11日, 名古屋大学
4. Soocheol Lee, E-Waste Recycling Systems and Sound Circulative Economies in East Asia: A Comparative Analysis of Systems in Japan, South Korea, China and Taiwan, 1st The East Asian Association of Environmental and Natural Resource Economics (EAAERE), 19/08/2010, Hokkaido University.
5. Soocheol Lee, Environmental Policy and Development of Environmental Fiscal Reform of South

Korea-Comparative Study to those of Japan-, 4th World Congress of Environmental and Resource Economics (WCERE), 01/07/2010, Canada

- Montreal University of Quebec
6. 李秀澈, 韓国の環境行財政改革の論点と課題—日本との比較を交えて, 環境経済・政策学会 2009 年度大会, 2009 年 9 月 27 日, 千葉大学
7. 李秀澈, 韓国のグリーンディール政策と低炭素グリーン成長戦略, 環境経営学会 2009 年度大会, 2009 年 6 月 5 日, 東京大学

[図書] (計 2 件)

24. 李秀澈(編) 『東アジアの環境賦課金制度』昭和堂, 2010. (査読有)
27. 朴勝俊 『環境税制改革の「二重の配当」』晃洋書房, 2009. (査読無)

[産業財産権]

○出願状況 (計 1 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況 (計 1 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織
(1) 研究代表者
李 秀ちよる (LEE SOOCHEOL)
名城大学・経済学部・教授
研究者番号: 10329683

(2)研究分担者

李 態妍 (LEE TAEYEON)

龍谷大学・経済学部・准教授

研究者番号：30316153

桜井 次郎 (SAKURAI JIRO)

神戸市外国語大学・外国語学部・准教授

研究者番号：40362222

羅 星仁 (NA SUNGIN)

広島修道大学・人間環境学部・教授

研究者番号：00342311

朴 勝俊 (PARK SEONGJUN)

関西学院大学総合政策学部

研究者番号：00351263

吉田 央 (YOSHIDA HIROSHI)

東京農工大学・農学研究院・准教授

研究者番号：40251590

陳 禮俊 (CHEN LI-CHUN)

山口大学・経済学部・教授

研究者番号：00314790

知足 章宏 (CHIASHI AKIHIRO)

立命館大学・産業社会学部・講師

研究者番号：90525156

(3)連携研究者

()

研究者番号：